

## 内海 滉先生を偲んで

松永保子



内海滉先生はとても大きな包容力のある方でしたから、指導を受けた人は数多くおります。したがって、私、松永保子が一人でこの追悼記を書くよりも、多くの人に書いて頂いた方が、内海先生も喜んでくださると思いました。

内海先生の晩年において、特に交流が深かった方々にも、追悼のお言葉を頂きました。

私が内海先生にお会いしたのは、千葉大学教育学部特別教科（看護）教員養成課程（現在はありません）に入学した時です。現在の看護系の教育課程にはまずない「医学概論」や皮膚疾患等の講義をしておられました。また、「ドイツ文化研究会」なるサークルの顧問をされており、「コンパにだけ出てくればいいんだから」と誘われて入りました。（少々）勉強をした後には、やはり飲みに行くことが多かったように思います。毎年、内海先生主催の外房「太海」での勉強の合宿、実は懇親会もしました。大学卒業後もほとんど絶えることなく今日まで研究指導をして頂き、内海先生とは長いお付き合いでした。このように思い出を数え上げたらきりがありませんので、実に寂しい限りです。先生、これからもどうぞ見守ってください。

（信州大学医学部保健学科 松永保子）

20年前、私が千葉大学看護実践研究指導センターの共同研究員に採用されたのをきっかけに、内海先生のご指導を受けるようになりました。本学会の会員になったきっかけも内海先生のご紹介です。最近はお目にかかる機会が無く、お元気でいらっしゃるかと案じていたところ訃報に接しました。先生は勉強したいという看護職の応援者でいらっしゃる、原書講読の勉強会や研究指導を熱心にして下さいました。また、素晴らしい声の持ち主で、千葉大学合唱団の退官記念コンサートでは、グループから少し離れた位置で歌われて丁度つり合いのとれる程の音量でした。語学の才能も素晴らしく、勉強会の後の食事会の会場で、隣席に座ったフランス人の通訳をなさったことには感嘆しました。まだまだ先生の思い出はつきません。先生の晩年にご恩返しができなかったことが心残りですが、看護の教育・研究に専心することで先生のご恩に報いたいと思います。内海先生、有り難うございました。

（山梨県立大学看護学部 松下由美子）

内海滉先生は、最後まで教育のために尽くされ人生であったと思います。学びたい気持ちがある人には惜しまず、何の報酬も求めず教えてくださいました。時には雑談で、ネアンデルタール人のお話を、とても愉快そうにお話くださっていたことを思い出します。また、「何事があっても人を恨まず、勉学に励め」との教え忘れられない一言です。最期も本当に先生らしい人生の終え方であったと思います。棺の中の先生は、目を細めて微笑まれているかのようなお顔でした。「小竹君、ぼくはとても楽になったよ。」とおっしゃっているようでした。先生のご冥福を申し上げます。先生、本当にお世話になりありがとうございました。

(自治医科大学看護学部 小竹久実子)

「応用心理学会で発表しよう」と勧める明るく張りのある声、満面の笑顔が目浮かびます。学会発表経験の少なかった私は、この一言で、ずいぶん勇気づけられました。内海先生との出会いは20数年前に遡ります。ある看護専門学校で「統計学」を教えておられた内海先生に出会ったのがきっかけです。「研究しよう」「英語を読もう」と何度もお誘いを受けました。しばらく躊躇して後、おそろおそろ参加した「英語の抄読会」で、「やあ、よく来たねえ。良く来た。良く来た。」と歓迎せんばかりの出迎えでした。私にほど遠かった「統計」「英語」「研究」を身近なものに感じさせ、励まし続けて下さった内海先生に感謝しても感謝しきれません。冥福をお祈りいたします。

(熊本大学医学部保健学科 森田敏子)

内海先生は、医学も語学も数学も音楽も卓越しておられ、多くのことを教えていただきましたが、一つだけ質問できなかったことがあります。それは、「いや～、山本君、よく来たね！」と笑顔で迎えてくださった、あのいつも変らぬ暖かい表現は、どのようにして身につけられたのかとこれも疑問でした。先生は、教育にとっても関心があると仰っていました。あのお姿は、教育のための意図的な取り組みなのか、あるいは、自然な情感の発露なのかと疑問に思いながらも、お聞きできずにおりました。今にして思えば、両方であり、それこそが教育者としての先生の天賦の才であったのだらうと思います。

(獨協医科大学看護学部 山本勝則)

内海先生の訃報を聞いて驚くと同時に先生との最初の出会いを思い出しました。心理学専攻大学院修了直後の約25年前に日本応用心理学会の発表で同席したのですが、何故この先生が看護に関する発表をしているのだろうと不思議に思いました。その理由を尋ねると、千葉大学で看護職の方の研究指導に携わっていること、これから看護学が成長していくためには学術的にしっかりした学会で発表し、切磋琢磨することが必要であることを熱く語られました。その通りの活動をされ、日本応用心理学会の看護の会員数が増加したことは皆様よくご存じのことと思います。学問は隣接領域との学際的交流によって発展するという先生の遺志を継いで、これからは看護の皆様とともに切磋琢磨し、看護学研究の向上を目指さなければならないと改めて思いました。

(九州大学大学院 川本利恵子)

内海先生からは、大変多くのことを学ばせていただき、感謝に絶えません。夜遅くご指導をいただき、早朝にまたご指導をいただく。一度、書き上げたばかりの原稿を電話で読み上げると、何頁の何行目の言葉は修正した方が良く、ぴたりと言い当て、大変驚きました。私たちへの指導は歯がゆかったと思いますが、そのような様子は微塵も見せずに、ご指導くださいました。先生の一言一言が感慨深く、何年も経ってからその意味の深さに気づかされるのが多かったです。先生が大切になさっていた応用心理を私も大切にしていきたいと思えます。先生のご冥福をお祈りいたします。

(北海道大学大学院保健科学研究院 宮島直子)

先生に初めてお会いした時、低く響き渡るお声で、「ワッハッハ」と豪快に笑われるご様子に温かなお人柄という印象をお受けしました。第一印象の通りで、研究に関する稚拙な疑問や質問にも丁寧にご教示下さいまし

た。また、ユーモアのセンスもお持ちで、先生からお聞きしたネアンデルタール人の話に大笑いしたことが忘れられません。訃報を耳にし、言葉にならない寂しさを覚えます。今後とも指導賜りたかったのですが、今となっては叶うことができません。こころより、内海先生のご冥福をお祈りいたします。

(杏林大学保健学部看護学科 今留 忍)

内海先生に初めてお会いしたのが、昭和59年、内海先生が千葉大学看護実践研究指導センター教授で研究教育をされていた時のことです。私は国立公衆衛生院の研修をしており、一緒に食事をさせて頂いた翌日から、私の研究活動がスタートしました。内海先生との出会いは、私の教育人生の大きな機転となり、その後も継続して研究指導を頂き、数多くの研究業績を残すことができました。また、数多くの内海研究グループの研究仲間という財産を頂き、現在まで共同研究を継続的に進めております。私は今、内海先生のお優しいお顔とお声を思い出しながら、内海先生のご遺志に応えるため、教育者として、更に研究教育活動に邁進して行きたいと思っております。内海先生いつまでも私たちを応援して下さい。(獨協医科大学看護学部 遠藤美根子)

「巨星おつ」。先生の訃報は私の心にこの響きとなって届き、しばらく動くことすらできませんでした。まさに無念の死としか言いようのない思いです。ギリシャ語、ラテン語をはじめ、多くの言語にも造詣が深く、「すぐに役立つ研究は次元の低い研究だ。役に立たない研究をしたまえ。」が先生の持論でした。世事に流されることを嫌い、たとえ、戦火の中でも学問することの優位性を力説しておられました。その先生の教えを何一つ、実行することができないうちに私にとっての知の世界の巨星である先生との永訣となってしまいました。

(大分県立看護科学大学看護学部 伊東朋子)

私と内海先生とは授業以外では「ドイツ文化研究会」のお付き合いからです。卒業後は英語の勉強会を先生の手ほどきで始めました。最初は先生の勤務なさっていた池袋の皮膚科の外来で何人かの友人と看護に関する文献を読みました。私は英語力がなかったのでもうふう言いながらついていっていましたが、他の友人は予習をして参加していました。先生はいつもニコニコした顔で大きな声を出して英文を読み、日本語に訳して下さいました。そして必ず「何か質問はないかね」とおっしゃり、質問が出ると「いい質問だ」と声を張り上げて喜んで下さりました。英語の勉強会は場所や人が変わりましたが、続いており、昨年の年賀状にも「勉強会にいらっしゃい」という言葉をいただきました。私の脳裏にはあの笑顔と低い声のお姿が残っています。

(神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部 畑中高子)

内海先生は、大学入試の時から印象に残っているとでもインパクトのある先生でした。また、私にとってとても影響力の強い先生で、『臨床と研究は別なもの』『すぐに役立つ研究ほど価値がある』など、熱っぽく語られていた姿を今も鮮明に思い出します。不肖の弟子ではありますが、先生のこれまでのご指導と言葉を胸に、自分なりに研究に取り組んで参りたいと思っております。先生、どうか見守っていて下さい。そして、天国でも楽しく研究して下さいね。

(山口県立大学看護栄養学部 張替直美)

「今仕事が終わったんだよ。夕飯、食べよう。」千葉大時代、先生の電話は決まって夕方の7時頃。卒業後、先生の電話は朝6時。「まだ寝てたかな？悪い、悪い。」いつも温かく、深く、楽しそうな声で電話を下された先生でしたが、妹さんが入院された日の電話は、お母様のお葬式のときと同じ、弱々しく寂しい声でした。いつも明るく力強い声で話して下さった大好きな合唱団、ドイツ留学時代、そしてお母様の話、もっともっと聞きたかったです。もう一度、「やぁ、のんのちゃん！」って、笑って欲しいけど、今頃は天国で、ご両親とともにいらっしゃるのでしょね。心から、感謝をこめて、ご冥福をお祈りいたします。

(東邦大学医学部看護学科 野々山未希子)